

# 佐賀市 57 歴史探訪

## さがじょうにし ごもん どばし あかいし ごがん 佐賀城西の御門土橋の赤石護岸

佐賀城は低平な佐賀平野に築かれた平城で、城の周囲は幅40間(約70m)ほどの広い堀で囲まれています。このような佐賀城への出入口は全部で4カ所あり、その一つに西の御門があります。

西の御門自体は、古写真や詳細な絵図が残っていませんので、詳しくは分かりません。ただ、門までの通路は西堀の兩岸から掘を埋めて土橋を築き、その途中に木橋を架ける構造になっていて、門の内側には土塁を築き城内の遠望ができないような工夫がされていたことが「佐賀城分間御絵図」に描かれています。

平成16年度に実施した埋蔵文化財確認調査で、このような西の御門に通じる土橋の様相が明らかとなりました。この調査では、赤石積みの石垣が現道下約50cmのところを確認されています。確認された石垣は、寛政年間(1789～1801)に築かれた土橋の石垣護岸と考えられるもので、部分的に後々の開発で壊されているところもありましたが、おおむね良好な状態で遺存していることが分かりました。

この調査では、石垣の全体構造をすべて確認したわけではありませんが、別の地点で行われた調査結果から、石垣下部には石垣自体の沈下を防ぐため「梯子状<sup>はし</sup>胴木」と呼ばれる丸太を梯子状に組み合わせたものを置き、その上に加工した赤石を5段積みしているものと思われます。

### 一口メモ

県立美術館の対岸、佐賀城南堀端の散策ルート内には、佐賀城南堀石垣護岸を移設復元し、その構造を紹介しているものがあります。

移設復元された石垣護岸



▲現在の西の御門周辺



▲確認された石垣護岸

